

令和 6 年能登半島地震による液状化被害の事例と大学での学び（速報版）

2024.1.6 金沢工業大学 環境土木工学科

環境土木工学科では、市民生活の安全・安心や「暮らしやすさ」を支える社会インフラの整備や防災にいて学びます。令和6年能登半島地震では、建物や道路をはじめとする多くの社会インフラに被害がありました。



地盤の隆起・電柱の倒壊、道路（舗装）の損傷（内灘町西荒屋地区）



地盤の隆起・道路（舗装）の損傷（内灘町西荒屋地区）

※道路に見える砂は液状化によって地下水が地表面に浮上した跡です。



地盤の隆起によって道路が寸断



道路の被害状況（内灘町西荒屋地区）

※各所で通行止め、地下の水道管にも被害があるため断水が続いています。

環境土木工学科では、社会インフラを支えたための地盤の性質・調査方法や液状化などの地盤災害を防ぐ対策について学びます。関連科目：「土質力学Ⅰ、Ⅱ、防災工学Ⅱ、地盤工学演習」

また、「地域政策学Ⅱ、建設マネジメントⅡ」では災害に対する復興政策について、「交通工学」では道路計画や舗装について学びます。